



稚松会だより

第66号
 発行所
 福島県立白河旭高等学校
 稚松会
 編集兼発行人
 稚松会会長
 渡辺美恵子
 ㈲古楓堂堀川印刷所

バトンをつなぐ



昭和40年卒
 稚松会会長
 渡辺 美恵子

会員の皆様お元気でしようか。今年一年新型コロナウイルスには大変苦しめられました。予防策として、社会生活を送るのに、およそ人として必要不可欠な事、5人以上の会食をしない、大きな声で話さない、接触しない、ということですが、これに一年間皆様はよく耐えてきました。また、新型コロナウイルス感染渦の中、東京オリンピックはどのようなことになるのかと、思っておりましたが、流石日本！いろいろな問題を乗り越え、成功させました。オリンピックが開かれたことは、私に大きな励みとなりました。また、選手たちを見てみると、どんな環境であれ、己の体を鍛え、技を磨き、強い心を表す、すばらしさに感動いたしました。テレビを見てふと目が留まったのは、男子400Mリレーの各国の選手たちの姿でした。あの素晴らしいバトンタッチです。渡す人、渡される人が、バトン一つに心を集めしつかりと繋いでいました。

私達同窓生もあのようにつかりと、つないでいかなければならないと思いました。しかし、今までの総会、新年会を見ても、若い世代の顔が見えないのが事実です。これからは次の世代にバトンタッチはできません。何とか次の世代にしっかりと、繋がなければならぬと考えました。そこで、同窓生各世代の方々に同窓会の中身についてどのくらい知っているかをうかがってみました。

50歳までで、耳順の会を知っていたのがほんの僅かでした。同窓会の活動に携って初めてその存在を知ったというところのようです。

そこで、在校生に同窓会の中身を知って頂くと思いい、学校にお願いを致しました。その結果、職員室前に、同窓会用掲示板を設置して頂きました。

掲示内容を見て、若い人達の意見や提案などもいただければ大変うれしく思います。これからも同窓会のために、宜しくお願い致します。

校歌百年



校長 菊池 直之

稚松会の皆様には平素より、本校の教育活動に多大なるご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。稚松会の活発なご活動の折に触れて、創立100年の歴史の重みと皆様の母校への溢れる愛情と大きな期待を感じ、身が引き締まる思いしております。

さて今年度は、夏場に新型コロナウイルス流行第五波が襲来しましたが、秋には感染状況が劇的に改善され現在に至っているのは、不幸中の幸いです。おかげさまで十月には、本校で三年に一度の「体育祭」で大いに盛り上がり、二年生の修学旅行や一・三年生の遠足などの学校行事を無事実施することができたのは、大変喜ばしいことでした。

ところで今年度は、本校の校歌が大正十年（一九二一年）に制作されてから、ちよと百年目になります。現在、県教育委員会の県立高校改革実施計画による高校の統合などの動

きが活発化していますが、学校に統合や男女共学化等の動きがあった場合、校名と校章に加えて校歌も一新されることが多くあります。しかし本校では、平成九年（一九九七年）の男女共学化により現在の白河旭高校に校名が変更された際に校章と制服も変わりましたが、校歌は変わりませんでした。多くの卒業生や当時の学校関係者の皆様、それまで八十六年の長きにわたって歌い継がれて来た本校の校歌に、並々ならぬ愛着と誇りを持たれていたからであるかと推察されます。

残念ながら長引くコロナ禍により、全校生で校歌を斉唱する機会はしばらく失われていきます。しかし今後状況がさらに改善され、全校生そして稚松会の皆様と一緒に声高らかに、百年の重みを噛み締めながら校歌を歌える日が来ることを心から願っています。

今後とも、会員の皆様の変なぬご支援とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。



昭和42年卒
旧職員 白岩 晶子

皆様お元気ですか。コロナ禍で学校で勉強し、部活をし友人と遊んだりおしゃべりしたりという当り前の事ができなくなってしまいました。若い方達は特に辛い日々を送っていることでしょうか。

私は「最後の白女生」が入学した平成八年から九年間母校で数学教師としてお世話になりました。ちょうど白河旭高校誕生の時でしたので、校名、校章、校歌、制服などについて同窓会の方、先生方、生徒達といろいろ話し合いをした事が思い出されます。母校の伝統を守り新しい高校として出発した本校が現在も文武両道で活躍している事を大変うれしく思っています。

当時の生徒達は、土日も長期休業もほとんど休まず登校し、課外や模試など熱心に学習に取り組んでいました。又音楽祭、体育祭、学校祭ではどのクラスも遅くまで残り、練習や準備に取り組みました。青春のひとときを熱い思いで頑張っていた姿

が目に浮かびます。よく学びよく遊んだ君達のさらさら輝いていた日々を一緒に体感できた事は、教師としての喜びであり、私の人生の宝物です。

人生はいつも幸福な時ばかりではなく、苦しい時も悲しい時もあります。東日本大震災やコロナ禍など自分一人ではどうする事もできない困難もあります。それでも高校生の君達は、夢を持ちそれを実現する為に一生懸命動んでいます。

今日という日はその時だけのものです。「日々是好日」禅語ですが、その日一日をただありのままに生きる清々しい境地です。

私は退職後、茶道、書道、津軽こざん刺しを学びながら生活を楽しんでいます。皆様も健康で幸福な日々をお過ごし下さい。また卒業生の皆様にお会いできる事を楽しみにしております。

最後に母校の益々のご発展と同窓生の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

日々是好日

同窓生からの便り

「日々感謝」

医療従事者として

感謝とともに

故郷への便り

楽しい思い出



昭和36年卒
長谷川 雅子

幼い頃絵を描くことが好きだった私は、高校生の時も放課後の美術室が好きでした。大学も美術科に進み卒業後一年ほど僻地の中学校に勤務したのですが、恩師の勧めで郡山市の私立大学付属高校で美術科教員になりました。

その後多くの人生経験を味わい、再び「教職」の道に戻ったのです。小学校の臨時教員からの再スタートでした。

県内唯一「美術科」を設けた高校に再び招かれて二十年美術を学びたいという女子高校生と共に泣き、共に笑った日々でした。七十代から二十代後半までの教え子たちの動画やメールや案内状が届く度に「天職」を思う日々です。



昭和62年卒
森 はなこ

学生時代は、バスケット部、合唱部、写真部として活動し、緑あつて創立一〇〇周年には「一〇〇周年記念スライドショー」の製作をさせていただきました。作成しながら母校の歴史を振り返ることができ光栄でした。

新型コロナウイルスが流行りだしてあつという間に二年がたとうとしています。高校卒業後看護師となり、精神科病院の看護師として二十六年が過ぎました。現在は新型コロナワクチン接種にも携わっています。患者さんを守り、家族を守り、そして自分自身を守るためにもまだまだコロナウイルスとの戦いは続きます。

一日も早い収束を願って、医療従事者として「うつらない、うつさない、持ち出さない」をモットーに取り組みしていきたいと思えます。



平成4年卒
小針 永子

大学卒業後、地元西郷村へ戻り様々な活動をしています。アロマセラピスト、農業、スポーツインストラクター、お菓子作り教室など「おもしろそう」と感じたことに挑戦してきた結果が今の自分になっています。

大切なことは、行動することだと思っています。動き出し、てしまえば何とかなるもので、ご縁の繋がった方々にお世話になりながら楽しく活動できていることに感謝しています。

協力してくれる家族の存在にも感謝しながら、高校生だったあの頃と同じ熱量で、これからもチャレンジを続けていく自分でありたいです。



平成17年卒
米津 亜由美

高校卒業後は進学の為に上京し、IT系企業に就職して営業経験を積み、現在はルート流通部門にて渉外担当をしています。ルートが発行している情報誌を設置頂いている全国の駅や商業施設、スーパー等と日々やり取りをし、必要としている人が必要な情報をいつでも手に取れる環境作りに取り組んでいます。

高校時代、看護医療系クラスで人を支えたいという志を持った友人達に囲まれて過ごし、文化祭の仮装行列をチームプレーで成し遂げた体験や、その時の楽しかった記憶が、今感じている遣りがいになっています。母校、恩師、友人たち、そして両親への感謝を忘れず、今後も仕事に励んでいきます。



令和3年卒
平山 希美

白河旭高校で過ごした楽しい日々が鮮明に思い出されます。特に印象に残っているのは、やはり修学旅行です。ハードスケジュールではありましたが、広島、京都、大阪の三府県も友達と旅行できたことは忘れられない思い出です。

現在、私の大学では、コロナウイルス感染者数に応じて、オンライン授業にしたり、対面授業にしたりを繰り返しています。来年の実習が行えることを信じて、子どもに関する専門知識・保育技術を磨いていきたいと思っています。



令和4年度の特集は、「地域貢献」です。オミクロン株のコロナ感染症拡大の昨今、心配も消えませんが、地域の人々の笑顔のため、一步を踏み出す仲間達がいます。あの東日本大震災の折の活動についての内容も寄せられました。同窓生の皆様の勇気ある善意の一步をここにご紹介したいと存じます



移動販売車「ちりんご号」

「二戦必勝」から「地域貢献」へ

「ちりんご号」、かわいらしい名前でしょう。え、自転車に風鈴つけて走っているのかって？
いいえ、白河市の移動販売車「スマイル号」に続く二代目の移動販売車なのです。高齢者向けに食品や生活必需品を届ける移動販売車。市内のNPO法人ちりんご白河が運営しています。
このNPO法人の代表が、川瀬光子さん、旧白河女子高等学校の卒業生です。
お仲間の深谷はるみさん、佐藤勝江さん、徳田芳江さん、白石慶子さん、添田恵子さん、上遠野美紀子さんと、この移動販売車を運営する計画

を立ち上げました。このお仲間たち、三十年来の気心の知れたバレーボールチームメンバーが中心。かつては、全国大会に何度も出場した強豪チーム。全員が還暦を向かえ、第二の人生に入ったところで、この新ステージの夢をバレーボールの「一戦必勝」から「地域貢献」に切り替えたというのです。何でも数年前のテレビで、偶然、移動販売の存在を知り、一人の女性が生き生きと働く姿が、実に印象的だったとい

います。それからは、行政への相談を重ねることはもとより、保健所の免許取得等、その手続きが、実にたいへんだったとのこと。
晴れて、令和三年九月一日、白河市役所正面玄関でその出発式が行われる運びとなりました。
鈴木和夫白河市長、川瀬光子理事長、伊藤満市町内会連合会長が、挨拶に引き続き、テープカットをしました。
主に白河地区の集会所や高齢者サロン、買い物ができる困っている個人宅の巡回をしています。
お惣菜の具材は、メンバーや知人友人たちの提供が多

いとの、ありがたいこととのメンバーの声。「商売」よりも「笑売」がモットー。「ちりんご号」の回りには、いつも笑顔と会話があります。「白河市民歌」とともに、「ちりんご号」がやってきました。「ほんとに助かってます。」「楽しみに待ってるのよ。」「ちりんごおはぎほんとおいしいわねえ。」「ポテトサラダ、いつも買うのよ。」のたくさんの声々。
人生二〇〇年代を迎えつつある今日。かつてのバレーボールチームの勇気ある、そして華麗なる転身、飛躍の姿に、大いなる拍手とエールを贈ります。
(取材・文化委員芳賀幸子)



昭和54年卒 永野 美代子
白河女子 高を卒業し 市内の幼稚園に八年勤務後、双子の母になり子育ての大変さを経験したことがき

「ひとりじゃないよ」と 寄り添って

地域貢献

昭和36年卒

八代 陽子



結婚を機に中島村民となり素朴で温かな環境で子育てが出来たこと嬉しく、村へご恩返しが出来ればと思っていました。白河の保育園を定年退職時、村の白女先輩が声をかけて下さり活動の場が広がりました。

- 中島村赤十字奉仕団委員長
- ・高齢者独り暮らしへのお弁当作り配達(月一回)
- ・東日本大震災被災者百人分の食事前昼晩と一週間
- ・体育祭、福祉まつり等村イベントで豚汁や麦茶提供
- ・研修旅行の企画実施(皇居清掃・県内森林探索)
- ※今は委員長を退き一会員として協力
- 子育て広場の創設
- ・乳幼児の遊び、育児相談の場を月一回
- ※十年実施を機に村事業に移行
- お話し会のボランティア
- ※子育て広場十年後こちらに移行



皇居清掃 前の天皇・美智子皇后、皇太子殿下、清子様とお会いし、お話ししたこと、皆さん大感激でした。

- 日本舞踊(睦会) 会長
- ・福祉まつり・敬老会・海外留学生交流会等で日本舞踊
- 文芸会長
- ・中島村広報紙に毎月会員の作品を掲載
- 地区老人クラブ婦人部長
- ・地区の美化・伝統行事の継承等
- 来年は傘寿♡村には心強い白女先輩、同級生、後輩がいますので、無理なく楽しみながら村民の笑顔を心の糧として今の道を継続して行きたいと思えます。

地域の高齢者と共に

昭和44年卒

萩川 正子



白河女子高校を卒業して五十数年が過ぎてしまいました。光陰矢の如しですね。その場、その場を精一杯生きて来たと思っています。古希を過ぎ気力体力が激減してしまっただけで、親から受け継いだ小さな店を営みながら近所のおばあちゃんたちとおしゃべりをして毎日過ごしています。地元生まれなのでおばあちゃんに話を合わせられます。



白河市で推進している高齢者サロンのサポーターを友人たちと受けました。毎月一回ですが何をやらせようか悩んでいても分たちも楽しみながら計画を立てていきますがコロナの為に自粛しなければならぬのが残念です。

地域ボランティアに

昭和42年卒

藤田 由史子



今から五十八年前、東京オリンピックが開催された時、私は旧、白河女子高校の一年生でした。



当時千五百人近いマンモス女子高で教室は机の間を横歩きの状態でした。熱血の先生が沢山おいでになり、授業の終わりに読み聞かせをなさる先生がいらしてその心地良さは一生ものです。

後に幼児教育の道に進み、退職後は「しらかわ語りの会」に入りました。会員の皆様と市内の小学校や生涯学習の場に出向き、童話や白河の歴史を語り、高齢者に「は安らぎを、育ち行く子ども達には夢と希望を届けた」と励む日々です。

っかけで子育て支援に関わってきました。

東日本大震災直後、NPO法人「子育て環境を考える虹の会」を設立し、開所した親子の居場所「たんぼはサロン」は十周年を迎えます。現在、白河市の委託を受けファミリーサポート事業、子育て支援拠点事業等を運営しています。子育て中の親が「この地域でこどもを産み、子育てしてよかった」と実感できるように、そして、こども達が「この地域で生まれ育ってよかったです」と笑顔になれるよう願いながら活動していきたいです。



ソフトボール部
三年 海老原 夏美

私たちソフトボール部は今年度、春季大会・県総体優勝、インターハイ県大会準優勝という成績を収めました。部活動を引退した今、残るものは部活動を通して身につけた人間性です。顧問の相場先生と鈴木先生は、いつも「強いチームは挨拶ができて、礼儀正しい」とおっしゃっていました。そのお言葉を受け行動を改善したことで、今回の結果に繋がったと思います。高校を卒業してからも、気配りや感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいと思えます。ご指導して下さいました相場先生、鈴木先生、応援して下さいました方々、本当にありがとうございました。

全国高校総体に出場して

陸上競技部
二年 塩田 葉那



吹奏楽部
三年 鈴木 彩音

私たち吹奏楽部は、夏に行われた福島県吹奏楽コンクール小編成の部で銀賞という成績を収め、九月には第十七回定期演奏会を開催しました。昨年に引き続き、新型コロナ

吹奏楽部での活動を終えて



私はこの大会に出たいと申し出たことを快く引き受けてくれた鈴木先生、そして応援してくださいました多くの先生方に深く感謝しています。この先の大会でも自分の言葉が人に伝わることを喜びを忘れずに全力を尽くして頑張りたいと思います。



放送コンテストに出て
思ったこと
一年 立石 彩葉

私はこの度「野菊の墓」という本を朗読し優秀賞を頂くことができました。この大会は朗読の基本である滑舌やアクセント、いかに日本語の美しさを表現するかを審査します。この話は特に主人公の心情が掴みにくく大変でした。実際に試行錯誤をして得た賞は嬉しかったのですが、それ以上に自分の想いが審査員の各先生方に伝わったことが一番の喜びでした。

文武両道

—頑張る白河旭高生—



間性です。顧問の相場先生と鈴木先生は、いつも「強いチームは挨拶ができて、礼儀正しい」とおっしゃっていました。そのお言葉を受け行動を改善したことで、今回の結果に繋がったと思います。高校を卒業してからも、気配りや感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいと思えます。ご指導して下さいました相場先生、鈴木先生、応援して下さいました方々、本当にありがとうございました。



ナウイカスの影響で活動に制限がかかる中、部員全員で力を合せて乗り越えることができました。衝突することもありました。お互いの意見に耳を傾け、協力していくことで、以前よりもより強く部員の皆とつながることができた気がしました。



手話に学ぶ40年

昭和55年卒

渡辺 静子



多くの皆さんがテレビ等で手話通訳を目にする様になったのは、東日本大震災からでしょうか。二年に及ぶコロナ禍・パラインピックでも手話や聞こえない方のマスク生活での不便さ等が、メディアで取りあげられました。

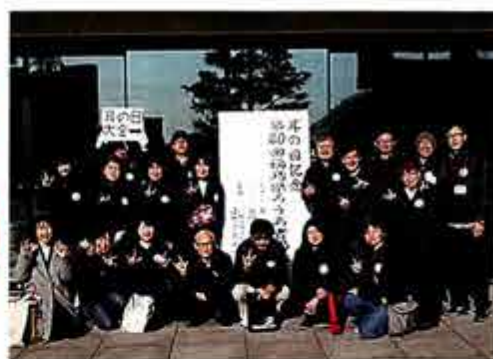
私は高校卒業後すぐ、聞こえない方との出会いをきっかけに、白河手話サークル「草原」で手話を学び始め現在に致ります。この四十年（自分でも驚きです）の間に、聞こえない方達と一緒に活動を続け何とか手話通訳士の資格を取得、手話通訳の働きもさせていただいています。



令和4年1月30日(日) 支部長・幹事会



祝 白寿(令和4年度に100歳) 宍戸初子顧問(昭15卒)



手話の大会

親子三代表彰を受けて

昭和60年卒

佐久間 由香

「私達の頃は、9クラスあったんだよ。」「えーっ!」他県で生まれて育った娘と、まさか母校の話が出来るとは思っていませんでした。母手作りのチヤイナドレスを着た、ダンスパーティー。関山迄歩いて行った、本当の遠足。何故か「水球」があった球技大会、私の昔話に、娘は驚きの連続でした。今回表彰頂きましたこと、とても榮譽ある事と感動しただけでなく、振り返る良い機会も頂きました。本当に心から感謝申し上げます。



「親子三代お祝い」対象者

生徒	保護者(旧姓)・卒業年	祖母(旧姓)・卒業年
佐久間 悠歌	佐久間由香(関根)・S60	関根 由江(金澤)・S33
渡部 洸士朗	渡部 純子(小針)・H7	小針 利江・S45

「稚松会だより」の掲示板

「稚松会だより」の掲示板。校舎一階の職員室前の廊下にそのコーナーがあります。

「稚松会だより」の掲示板。現役高校生に同窓生としてメールを送りたい!同窓生もがんばっているよと伝えたい!現役高校生の声も聞きたい!この文化委員会の熱い思いを菊池直之校長先生に渡辺美恵子会長がお伝えしたところ、校長先生自ら、取り計らって下さったのです。

このスペースには、稚松会だよりの掲示板はもとより、同窓生の活躍を紹介している新聞記事や市政だよりなども拡大して、随時掲示しています。

「一言感想を!」と付箋と鉛筆を脇に用意しておいたところ、二枚の付箋が貼ってありました。

「稚松会のことをたくさん知ることができました。」

「選解になっても集まれる関係って、イイナ!って思いました!」

もちろん、お返事をその付箋に書き添えたのは、言うまでもありません。

双方の交流は、うれしいうれしいもので、定期的にも、定期的に高等学校を訪ね、ウキウキと掲示内容をチェンジしていきましょう。

意気上が、文化委員のメンバーです。

(文責:芳賀)

今年度の旭賞受賞者

長田 歩海 (おさだ あゆみ)

推薦理由：在学中の活動が他の模範と認められ、優秀な成績をおさめた。

ソフトボール部

推薦理由：在学中の活動が他の模範と認められ、全国大会および東北大会に出場し、優秀な成績を残した。



渡邊路子さん(昭和44年卒)は、長年調停委員としてご活躍され、藍綬褒章を受賞されました。おめでとうございます。



稚松会活動協力金の贈呈

白河旭高等学校 《稚松会》 令和2年度歳入歳出決算書

歳入 [単位：円]		
科目	決算額	摘要
繰越金	529,516	
入会金	955,000	令和元年度卒業生 45,000×191名(5クラス)
雑収入	10	利息
歳入計	1,484,526	

歳出 [単位：円]		
科目	決算額	摘要
総務部費	467,340	
入会記念品費	246,960	卒業証書フォルダー ¥1,260×196名
渉外費	0	
通信費	135,574	総会等案内、切手代
消耗品費	7,246	事務用品代
印刷費	0	
講習会費	0	
雑費	17,560	高校野球・サッカー広告等
旅費	0	
事務費	60,000	事務手当
厚生部費	13,600	
新年会準備費	0	
記念品費	13,600	親子三代記念品
事業費	426,153	
部活動援助費	300,000	白河旭高校生徒会へ
旭高校後援会協力金	100,000	白河旭高校後援会へ
褒賞	26,153	旭賞
予備費	0	
予備費	0	
歳出計	907,093	

歳入総額 1,484,526円
歳出総額 907,093円
歳入歳出差引残額 577,433円

令和2年度稚松会会計歳入歳出決算について上記のとおり報告します。

白河旭高等学校 《稚松会活動協力金》 令和2年度歳入歳出決算書

歳入 [単位：円]		
科目	決算額	摘要
繰越金	1,831,676	
活動協力金	2,290,511	2019年 1,175名
雑収入	65,332	名簿販売還元金、利息
歳入計	4,187,519	

歳出 [単位：円]		
科目	決算額	摘要
稚松会だより費	346,419	
印刷費	346,335	稚松会だより
発送費	84	切手代
諸経費	0	
事業費	27,812	
総務委員会活動補助費	4,761	会場費、お茶代
文化委員会活動補助費	16,949	切手、写真等
厚生委員会活動補助費	6,102	会場費、お茶代
支部活動補助金	0	
白河旭高校支援金	0	
予備費	0	
予備費	0	
歳出計	374,231	

歳入総額 4,187,519円
歳出総額 374,231円
歳入歳出差引残額 3,813,288円

令和2年度稚松会活動協力金会計歳入歳出決算について上記のとおり報告します。

稚松会総会&新年会の開催について

コロナウイルス感染症の状況並びにワクチン接種の状況に応じて、実施の有無(会議のみ懇親会は中止等を含め)並びに実施形態についての適切な対応を図りたいと存じます。

編集後記

今回、会員との素敵な出会いがありました。

今は亡き旧職員・菊池勝義先生の奥様が下さったのは、生徒が地元の方に聞いた伝説や昔話をまとめた冊子で、文化祭で配ったものようです。白河の語り団体に所属している私は、どなたがまとめたのか知りたいし、参考文献の許可を頂きたいと、「三ノ七」のみ記されている冊子を頼りに、やっと五十年卒の会津、東京、川崎にお住いの三人の方に辿り着いたのです。卒業して約半世紀、既に手元に無い青焼きの冊子が現存していることに驚き、それが役立つことへの喜びを話しながら、高校時代の豊かな経験が今の自分になっていると話していました。

電話で話す三人の明るい声が爽やかに耳に残ります。

稚松会のご縁に…感謝…

(鳴島あや子)

